

第2・4週

英語放送

土曜日の午後 10:00 から 15 分間の放送です

1月・2月放送のゲストはアメリカオレゴン州出身の David Hepler さんでした。David さんは、18年前英語教師として初来日され、当時からボランティア活動に関心を持ち、色々な事に関わってこられました。今は地域の消防団に入って消防士として活躍中です。

消防団に入られたきっかけ

奥様と一緒に三田の郊外をドライブ中、地域のお百姓さんが野焼きをしている場面に行き当たりました。最初は「火事だ!」と驚いたものの、やがて野焼きだと分かり自分にも何かできないかと早速消防団に申し出られたそうです。

入団の条件

「酒、大丈夫?」「親睦旅行、大丈夫?」と聞かれ、「大丈夫」と答えると、すぐにOKだったようです。入団のハードルは高くなかったと笑っておられました。



大仰に構えることなく、まず自分にできる事はないかと考え、即実行に移す、そこに David さんのボランティアに対する姿勢を見た様な気がします。

第3週

ポルトガル語放送



12月、2月の放送で、田原理恵さんへインタビューしました。

Q: 田原理恵さんは国際協力機構 (JICA) ボランティアとしてパラナ州マリンガ市へ派遣され、2010年7月まで2年間を過ごして帰国されました。日系人中心の高齢者ホームでお仕事をされたそうですね。

A: もともとは介護士と音楽療法士の資格をもち、2年間介護士として働きました。JICAの青年海外協力隊の事を知り、日本における介護の経験を海外で伝えたいと考えました。

Q: 具体的なホームでのお仕事は?

A: 高齢者福祉という分野での派遣でしたので、入所者の健康管理、施設の環境整備、レクリエーションなど日常的な活動や介護者の技術指導、各地での講習会などを行いました。

Q: ブラジルにおける高齢者福祉についてどう感じましたか?

A: 日本では介護士さんの健康問題を経て、負担を軽減するための工夫がなされてきましたが、ブラジルでは介護士さんが比較的若く体格が良いので、力ずくの介助をして、身体をこわす人が多いのです。これは、技術指導や講習会のひとつのポイントにもなりました。ホームでの日常的な活動としては、日

本では様々な活動が行われていますけれど、マリンガのホームでは、賑やかな誕生会がよく行われていました。カーニバルでは、日系人の会館でのイベントに入所者も招待され、楽しく参加しておられました。クリスマス会も盛大でしたね。

Q: 日系のお年寄りにとっては、田原さんのように日本語で話してくれる人が来てくれたのは嬉しかったのでは?

A: 職員には日本語を話せる人はいないので、日本語で話すこととても喜ばれました。自分のルーツというか、日本に対する思いをお持ちですから、マリンガの他にも、同じ高齢者福祉分野のJICA派遣者がサンパウロやベレンで日系のお年寄りに関わる活動をしています。

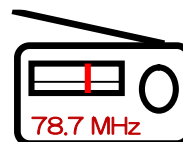
Q: 帰国後のお仕事は?

A: (財)日本国際協力センター (JICE) で働いています。現在担当しているのが、日本で就職活動をしている日系人など外国の方々のための就労準備研修です。これは厚生労働省の事業を実施するもので、1月から3月まで行っています。

Q: またマリンガのホームを訪ねてみたいですか?

A: 入所者の皆さんにまたいつか、ぜひお会いしたいですね!

第1週 **中国語放送**



2月の放送では、関西学院大学法学部4回生で、まだお若いですが、二胡奏者としてもご活躍の沈佳さんをゲストに迎え、楽しいお話と、そしてすばらしい二胡の演奏（曲目：京劇曲「剣舞」）を披露していただきました。お話の中から、沈佳さんの二胡との出会いそしてこれまでの歩みについて、少しご紹介したいと思います。

二胡はいつから？—

幼稚園に行っていた4歳のときから二胡を習い始めました。その頃まだ小さくて、何も分っていませんし、私自身は特に二胡が好きだったわけではありません。父がとても音楽好きで男の子は何か習わせなきゃと思い、私に二胡か、バレエを習わせると言ったんですね。幼稚園の時、少年宮(子供達の課外活動施設)の音楽の先生が、父親に「息子さんは、音楽の素質がある。」とおっしゃったのもあって、それで私は、二胡を習うようになりました。



小さい時は楽しいことばかりじゃなかったようです・・・。

小さい時、二胡の練習では、何度も泣きました。

父は、とても厳しいと言うわけではないのですが、習い始めた以上、最後まで全うしてほしいと思ったんでしょうね。今でもよく覚えているのは、6月のこどもの日、どの子も遊びに行くのに、私は父に「遊びに行っていよいよ、でも2時間練習してから。」と言われました。それで、私は二胡を1時間半余弾きました。他の子は遊びに行っているのに、私はずっと家で面白くない。それで、もうそれ以上弾き続けられなくなりました。泣き喚いて弾かなかったんです。その時、父は本当に怒りましたね。私は洗濯板の上に正座させられ、父はもう少しで、二胡も壊してしまうところでした。結局、私は遊びにも行かず、我慢して、4時間練習しました。そのときは、二胡のことを本当に恨みましたね。(4,5歳の時だそうです。練習は厳しかったんですね！)

その後は？—

中学生の頃からは、二胡の腕もまずまずとなり、上海民俗音楽芸団の少年音楽団で教え受けるようになりました。毎年香港公演や台湾公演など各地へ公演に行くようになり、次第に頑張れば、頑張っただけの成果があると感じられるようになりました。今となっては父にとっても感謝しています。

今、私は大阪の枚方と寝屋川に自分の教室があり、ずっと私について二胡を習い続けてくださっている十数名の生徒さんにもとても感謝しています。彼らは、私が日本に来るにあたり、とてもよく面倒みてくださいました。私は教室で二胡の講師と言う肩書きで教えていますが、(この教室を通じて)たくさんの人と人の交流というものを知ることができました。

二胡を通じて、日中両国の文化、人の交流をされているんですね！—

多くの方と知り合い、そしてよく言われるんです。「沈佳さんは、すばらしいですね。(日中の)かけ橋ですね。」って。ですから私も日本で活動してとても楽しいです。

これからのご活躍をお祈りします！！

番組で取り あげたテーマ

言語により変更がある
場合があります。

- 1月 最低賃金について。 防災情報：地震への備えについて。
- 2月 確定申告について。 防災情報：火災について。
- 3月 高校生対象の奨学金について。 防災情報：り災(罹災)証明について

★★★★★★★★★★番組へのリクエストやご感想をお待ちしています！★★★★★★★★★★

財団法人西宮市国際交流協会 〒662-0911 西宮市池田町 11 番 1 号 フレンテ西宮 4 階

Tel: 0798-32-8680 Fax: 0798-32-8678 Mail: nia@nishi.or.jp

♪ホームページでも放送を聴くことができます♪ <http://www.nishi.or.jp/homepage/nia/radio/>